浜中町立茶内小学校「学校だより」

THE　茶内小　TIMES

令和４年（2022年）６月14日発行　VOL 11

ポスト・コロナの学校を描いてみる

浜中町立茶内小学校長　冨　田　直　樹

第94回大運動会に多くの保護者、地域の皆様にお越しいただきました。そして、本校の教育活動の一端を御覧になっていただいたことに感謝を申し上げます。

さて、本校に限らず、多くの学校で運動会といえば、「１日日程」で実施されていたのではないでしょうか。それが、2020年の新型コロナウイルス感染症の拡大をきっかけとして、当初は中止とした学校が多くありましたが、その後、感染防止対策も進み、学年ごとの分散や時間の短縮、規模の縮小など、何とか実施しようと模索した結果、現在の形に行き着いたのだと思います。現在もコロナ禍ではありますが、ワクチン接種をはじめ様々な対策が講じられ、多くの規制も緩和されるなど、コロナの終息が近付きつつあることを予感させる動きも出始めています。

そんな中、学校としては「ポスト・コロナ」、つまり、新型コロナウイルス感染症が終息した後の学校像を早急に、かつ真剣に描く必要があると考えています。2020年９月に教育開発研究所から「ポスト・コロナの学校を描く」という書籍が刊行され、その冒頭で次の内容が示されています。

近年の学校では、不登校児童・生徒の増加傾向や先生方のメンタルヘルスの危機が心配されていました。教育予算増が望めない中、多くの学校は、先生方の「教職への情熱・誇り」「創意工夫」「善意」に頼って何とかやってきていた状態だったのではないでしょうか。それが、コロナ禍でさらに無理を重ねようとしている。学校にいられなくなる子どもや教職員が増えることが大いに心配です。

学校は、子どもも教職員も無理をしないとやっていけないのでしょうか。

学校は、誰もが楽しい場所であってはいけないのでしょうか。

学校現場の「限界」が多くの国民に可視化された今こそ、新たな学校像を模索しなければならないのではないか。

運動会を１日日程から半日日程にするために、学校は何をしたのでしょうか。それは、学校として子どもたちに育むべき資質・能力を改めて明確にし、それを「基準」として各種教育活動の内容の精選を図ってきたはずです。

「茶小の先生方は無理してませんか？」、「街頭指導から先生方を解放してやったらどうですか？」などの声を保護者や地域の皆さんからいただいています。改めて本校が目指す資質・能力を子どもたちが身に付けるためには、何に取り組むべきか、考え行動する必要があると考えます。教職員の「教職への情熱・誇り」「創意工夫」「善意」に頼ることなく持続可能な学校をつくっていく、これが本校における「ポスト・コロナの学校を描く」ことであると考えます。